

Lightning



ニッポン旧車! VINTAGE AUTO

毎週楽しみたくなるまで **8** のクルマを揃ってまで。





1972 NISSAN FAIRLADY 240Z
with RB26 twin turbo



1970 NISSAN FAIRLADY Z
with RB26 twin turbo



1973 MAZDA RX-3
with 13B 3-rotor



DOODGE COUPE with 571 cc
2-door



1981 DATSUN
280Z



1970 NISSAN
FAIRLADY Z



1973 TOYOTA
CELICA LB 2000GT



1973 HONDA CB750
OVER Classics cafe



ウィンテージオートの楽しみ方にきまりなんてものはない
でも大好きなお相手がクルマである以上、やはりそこは走ってナンボの世界に他ならない
そこで今回は、お気に入りのマシンを走らせるために様々なスタイルを追求することに
大いなるエンスージャズムがあることを証明するクルマたちを紹介しよう

text/K.Yamazaki 山崎和彦 T.Ueno 上野達之 T.Suzuki 鈴木貴義
photo/T.Sakurai 桜井健雄 A.Hizano 平野 隆

We Respect Lived Vintages!

走れ 走れ
グイ シューズ

Lightning Special
Vintage Auto '88 2007 Early Summer
Special Feature

超軽量フェンダーで
スペックアップです



最高のスペックは細かいノウハウ
の集大成が成せる技。フェンダー
はFRPの超軽量タイプを採用する。
片手でヒョイッと持ち上げる軽さだ。



アラゴスタの車高調整式ストラットにセットさ
れるディスクは30センチ用スリット加工タイ
プだ。アンションロッドはもともと2口式。



徹底的な各部の寸法、取
り付け部分の磨削もして
組み込まれたストラット。
下キドキしてくる!



この車高調整式のストラットは、フロントキヤリパー
はタイプMの4ポートタイプだ。
フロントキヤリパーは、

仕上がり状態を想 定し細かいセッティ ングを可能にした



ブレーキには踏むように大きなマ
スターバグを装備する。最高スペックを
安心して使いこなすのがロッキーオート
のポリシーなのだ。



フロントキヤリパーは、この車高調整式のストラットにセットされるディスクは30センチ用スリット加工タイプだ。アンションロッドはもともと2口式。

VINTAGE AUTO
STREET
PROJECT

1980年代、日本の自動車文化

でもってエアコンも装備!

NA380馬力。車体は徹底的に補強され、足周り
もゴージャスにグレードアップ! と聞くと、さ
ぞかしスバルタンマシンの完成を想像されるこ
とだろう。しかし、このマシンにはなんとオート
エアコンが装備される。ロッキーオートならは
の大人の乗り物としてのルールは、この最強マシ
ンでも当然のように守られているのだ。凄い!



現車作業

ズィートッププロジェクト
着々と進行中!



3

SCENE

目指せ公道最強
NAで目標
380馬力!
ROCKY'Z Top
Project

第2回

パワーに負けない 足周りを決める の巻

text/K.Yamazaki 山崎和幸
photo/T.Sakurai 桜井健雄
取材協力/ロッキーオート
phone0564-68-7080



アラゴスタで特注したストラットユニットと、大径ディスクブレーキを装着することで最強マシンの足元をガッチリと固める。もちろん高剛性フレームの功とつた。

NAで380馬力が目標という、
なんとも壮大で魅惑的なプロジェクトは、
着々とその製作工程が進行して
いる。この前代未聞のクルマ作り
を行っているのは同社のプロシヨッ
プ、ロッキーオート。ミュージアム
モノと呼ばれるフルレストアからレ
ィスカーさながらのハイパーエンジ
ン搭載のコンバートモデルまで、こ
れまで数々の名作を製作してきた
ときに蓄積してきたノウハウを活か
し、驚きの最速を仕上げるとい
う夢の企画だ。現在、エンジンのチ
ューニングに伴って車体作りも真つ
中。そこで今回はクルマのもうひと
つの命と言われる、足周りについて
紹介しよう。

Zトップの足周りは当然ながらノ
ーマルではない。フロント、リア共
に基本的にストラットメンバールを全
く新しい考え方で補強し、そこにア
ラゴスタ製の特注で、車高調整式
のストラットユニットを装着するとい
う方法でグレードアップさせる。

と、文字にするのは簡単だが実際
の作業は複雑、かつ繊細な採寸とセ
ット出しが要求される。当然ながら
完成後に走る様々なシチュエーショ
ンを想定し、それに合わせたセッ
ティングの幅を持たせるのが理想だ。
そしてその理想を実現させるには、
この段階で決めておかなければなら
ない部分が出てくるのだ。

補強の終わったシャシーはブラッ
クにペイントされ、見た目もだんだ
ん精悍になってきた。最強マシンと
してのオーラを、早くも少しずつ放
ち始めたぞ!



この絶頂的なマシンをコンプリートしたのは本誌ですっかりお馴染みのロッキーオート。例によって理にかなったチューンが施されている。

240

RBD TT ツインターボが ZG に新たな息吹を吹き込んだ!

ターボを装着したカスタムモデルは星の数ほどあった。しかし、これほどまでにマニア心をくすぐるマシンがあるとは驚きだ。RB26 ツインターボを背負った ZG は、ウィンテージオトマニアを非日常ゾーンへとひとま回りに連れていってくれる。その深みのある爽快感は、スポーツカー乗りを満足させるに十分なものであった。

text/K.Yamazaki 山崎和彦 photo/T.Sakurai 桜井健雄
取材協力/ロッキーオート phone0564-58-7060

1972 NISSAN FAIRLADY 240Z

with RB26 twin turbo



The Lightning Special 50th Anniversary
Lightning Special
Vintage Auto 88 2007 Early Summer
Special Feature

走れ、走れ、 ヴィンテージ!



1. いざフルブーストがかかった時の加速は凄まじい、後部座席に血が凍まる感じだ。2. いい音質でドライバーを刺激するマフラーはワンオフで、φ80となっている。3. 室内には本格的なロールオーバーが装着されるが、極力その存在を目立たせないようレイアウトが工夫されている。もちろん全ての仕様は公認済みである。

1972 NISSAN FAIRLADY 240Z

with RB26 twin turbo



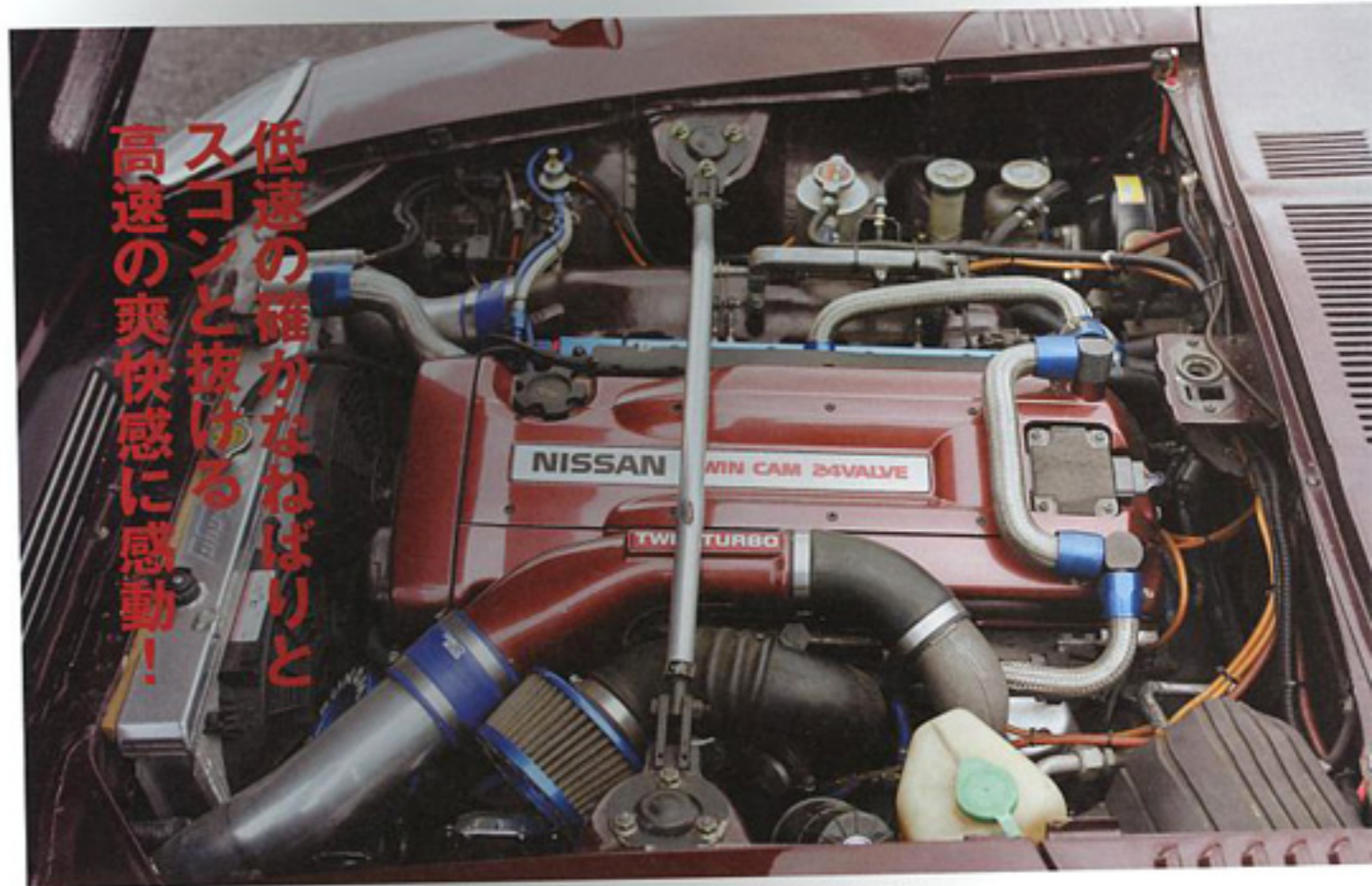
240ZGにあこがれるヴィンテージオートファンは多い。そしてこのクルマをベースにモディファイされているマシンの数も沢山ある。この1台はそんな中において間違いなく特別なポジションを獲得しているといえよう。後ろから見えるワンオフの燃料タンクも圧巻だ。

走れ走れ、 ヴィンテージ!

We Respect Lived Vintage!
Lightning Special
Vintage Auto #8 2007 Early Summer
Special Feature



ある！というだけでは真の愛好家からの高い評価は得られないだろう。そんなユーザー心理をしっかりと理解し具現化した1台なのである。そしてその具体的な内容が、とことんセッティングを追求したサスペンションであり、またユーザーに存在を意識させない電動アシスト式のパワーステアリングであり、そしてこのモンスタースタートをきっちり制御する高いレベルのブレーキシステムであることは言うまでもない。



低速の確かなねばりと
スコンと抜ける
高速の爽快感に感動!

ボディカラーに合わせてペイントが施されたRB26DETは、ノーマルタービンのブーストアップによって驚きのパワーを発揮する。



1. インタークーラーはGノーズの中にひっそりとマウントされている。2. ラジエターは大型のアルミ製で、渋滞時にもしっかりと対応する。3. インパネはレザー製の素材でカバーリングされており、イタリアンエキゾチックカーを連想させる。



きつちりとボディラインに沿うように装着されたロールオーバーに注意しながらコクピットに入り込む。そう、このマシンは乗るといふより、仕事場に入り込むと表現したくなる。そんなワクワク感をかきたてるマシンなのだ。

セルを数秒間戻すだけでいとも簡単に始動するエンジン。それもそれは、コイツの心臓部はキツチリとセッアウトされたRB26なのだ。しかし、そのエンジンがただのものではないことを、室内に装着されたブーストメーターが無言のうちにつまえてくる。慎重にクラッチをつなぐと、マシンは意外なまでに普通に、静かに滑り出す。野太いマニアックなサウンドは音質こそワイルドだが、音量は決してうるさくはない。「あれ、意外とジェントルなズダなあ」と思ったその直後、タコメーターの針が踊り、ブーストがかり始めた瞬間からドライバーは別世界に誘われる。その強烈な加速は目を見張る素晴らしい速いものだが、しかし、決して下品なものではない。例によってそこにはロッキオオートならではの大人の乗り物としての深みのあるテイストが存在するのであった。

「ターボを使えば確かに暴力的なパワーを引き出すことは可能です、でもそれをいかに誰かが楽しめるように料理するか、そこがコンストラクターとしての腕の見せ所なんですよ」とロッキオオートを主宰する渡辺氏は言う。確かに、240ZGというヴィンテージオートの中でも特に大人のユーザーが好む車体に搭載するエンジンは、ただ単にパワーが

2. らしさを少しでも損なってはいけない。大膽にモディファイしてはいるが、そんなマニアの心機をよく理解した仕上がりとなっているところがすごい。



ホンモノのGT-Rと RB26ターボ改の融合で 目を見張る加速を実現

速いハコは理屈抜きにカッコいい。ましてやそれがホンモノのGT-Rなら、それはもうヴィンテージオートの好きにはたまらない。ここに紹介する1台は、そんなマニアをさらに唸らせるスーパーギミックが潜んだ魅惑のマシン。その心臓部はRB26。しかも特大のターバインが装着されているのだ。

text/K.Yamazaki 山崎和彦 photo/T.Sekurai 坂井健雄
取材協力/ロッキーオート phone0564-58-7000

Who Doesn't Live Vintage?
Lighting Special
Vintage Auto #1 2007 Early Summer
Special Feature

走れ走れ ヴィンテージ!

2

1970 NISSAN SKYLINE GT-R

with RB26 T04B turbo

何事もなかったようにきっちり搭載されているネオプラント、ロッキーマジックがまたしても究極の1台を完成させた。





1.インパネは思ったよりもおとなしい。時計下に2個並ぶスイッチはなんとエアコン！2.スカイライン好きの気持ちを大切にしたコックピットは大改造はなされていない。3.さすがにマフラーエンドからは強大なパワーを発揮するエンジンを想像させる。4.機器類によって押し出されたバッテリーはリアトランクに移された。



5.タイヤはフロントが195/45-16、リアが225/45-16で、どちらもアドバンセオバを履く。特注オフセットのワタナベがいい表情を見せている。6.フロントブレーキにはBRN32のキャリパーが装着される。7.巨大な燃料タンクはステンレスのワンオフとなっている。



走れ、走れ、
ヴィンテージ!

We Respect Lived Vintages!

Lightning Special
Vintage Auto #9 2007 Early Summer
Special Feature



1970 NISSAN SKYLINE GT-R

with RB26 T04R turbo

ご覧のように外観上からはこのマシンがとんでもないスペックを秘めていることはわからない。オオカミの皮を被ったタイガー。そんな表情をしたくなる1台だ。



GT-Rらしい端正な雰囲気がしっかりとキープされている。最新技術を駆使し、エンジンはもちろん足回りも全て、とことん性能を追求したなんとも賢いヴィンテージセダンである。



ヴィンテージオートの世界に限らず、趣味の世界には思わずファンが涙をたらすような賢い極まりないものが存在するものだ。そしてこの国産旧車に聞いているならば、ここに紹介する1台のスカイラインは間違いないそんな賢いマシンといえるだろう。ベース車両の車体番号はPGC100104B、そう、紛れもないGT-Rなのである。

いわゆるハコスカをベースとしたエンジンコンバートモデルは本誌でも沢山紹介してきた。また、まるで新車のようなGT-Rが少ないといえ全国に存在していることも周知の事実である。しかし、そんな二つの要素がひとつになった存在は、そう簡単にお目にかかれるものではないだろう。ロッキオオートが所有するこの4ドアのGT-Rには、同社が得意とするパワーユニットのひとつ、RB26をベースとしたチューニングエンジンが搭載されている。しかもその内容はホンモノのGT-Rに敬意を払うかのようなハイスベックとなつているのだ。組み込まれたHKSのステップカムはイン、アウト共に272度、R34N1ピストンを採用し、ターボシステムはなんとT04Rタービンが所狭しと装着されているのである。燃料のコントロールはVプロ、心配される熱の問題は

ファンも唸る
ゴージャスなハコスカは
驚きのスペックを持つ

エンジンルームにはRB26が巨大なタービンと一緒にダウンと録音する。全ての機器類をいかに上手く降架に処理するかが最大のポイントであろうことは一目瞭然だ。

